

震災経験など発表

米国の訪問事業に招待

高2生の
気高

渡米するのは伊藤美沙さん（2年）と坂口峻君（1年）。2人は、同NPOが東日本大震災の被災地支援として、気仙沼高とイェール大学との間で

行っているスカイプ（インターネット通信）での交流活動に参加してきた。今回のプログラムは、いつもパソコンを通じて交流している現地の学生と実際に会い、さらに絆を深めてもらおうと企画。選考を経て、岩手や福島

の高校生4人とともに招待される。一行は東京都内で29日に合流し、30日に成田空港を出発。現地では7日間ホームステイしながら大学生との交流に臨み、震災経験などを発表する。18万人を要するグローバル企業のオフィスなども訪ねる。帰国は4月7日。

伊藤さんは「インターネット上で話してきた人たちと直接会えるのが楽しみ。将来、より活発な国際交流ができるよう、足が

渡米する伊藤さんと坂口君

が主催する米国訪問プログラムに招待される。ニューヨークで現地の私立学校（幼〜高一貫校）の生徒の家にホームステイしながら友情を深めるほか、今までインターネットを通じて交流してきた名門イェール大学の学生とも面会する。

渡米する伊藤さんと坂口君



渡米する伊藤さんと坂口君

かりを見つけてきたが、被災地の生の声」と語る。坂口君は「異文化に触れて視野を広げるのはもちろん。」「と抱負を話している。」